



# 12月4日 東北新幹線全線開業

# 今日が幕開け「青森観光新時代」

九戸氏



三村氏



## 座談会出席者(順不同)

- 青森県知事 三村 申吾氏
- 東日本旅客鉄道 取締役鉄道事業本部営業部長 原口 幸氏
- 青森県旅館ホテル生活衛生同業組合 女性部長 石澤 照代氏
- コーディネーター 九戸 眞樹氏
- 青森県観光連盟専務理事



東京・表参道を「青森一色」にしたPRイベント「とことん青森MAX in 原宿表参道」(11月)

## 訪日客の受け入れ

九戸 インバウンドへの取組みも今後重要である。観光連盟では観光客の案内板を多言語表示したり、インバウンド受け入れ体制の充実支援のために、中国語の簡体字、繁体字、韓国語、英語の研修を自治体などで行っている。今年に真真正正に取組むという自治体や地域が増えている。今年に真真正正に取組むという自治体や地域が増えている。今年に真真正正に取組むという自治体や地域が増えている。

## 今後の青森観光

九戸 これまでの青森観光は、シーズンの観光客が集中する時期に合わせた観光振興策が中心であった。これから観光客の裾野を広げ、街なかを歩き、時間をかけて観光客の滞在を長くする。観光客の滞在を長くする。観光客の滞在を長くする。



海外メディア向けのファームツアー

# 青森に来て「元氣再生」を

三村氏

石澤 県内にある温泉は泉質も個性豊か。確かに大きな温泉地、大量送客に対応できるような温泉旅館は少ない。しかし逆に言えば小規模な温泉旅館は多い。これが昨今の友人同士や退職後のシニア夫婦などの個人客、小グループ志向には合っている。単位が小さくなってきているので、小規模の温泉旅館は多い。これが昨今の友人同士や退職後のシニア夫婦などの個人客、小グループ志向には合っている。

## 2次交通の整備

九戸 新幹線開業で心理的距離感解消され、県内での2次交通の面でも十分ではない印象があったのではないかと。原口 2次交通の整備は非常に重要だ。大森線と津軽線にハイブリッドシステムを搭載した新型リゾート列車「リゾートトレイン」を導入して投入した。これは、2次交通面での利便性を高めるだけでなく、「青森に来たけれど乗るの不便な車」を運行することで、誘客力の向上にもつながる。地元バス会社との連携や、JR東日本グループによる観光周遊バス「びゅうバス」の運行、

好評の観光地を巡る定期タクシー「駅から観光タクシー」やレンタカーサービス「トレンタカー」の整備もしている。三村 県としても2次交通の充実策を徹底的に展開した。JR東日本は経験もノウハウも豊富なので、さまざまなアドバンテージを受けながら取り組んだ。距離的に一番遠い下北と津軽半島について、JR東日本が最新鋭のリゾート列車を投入したのに合わせて、完全巡回型交通ネットワークを作った。レンタカーや交通インフラの利便性が上がった。三村 JRはJALなどと一緒に行う取り組みで、先々まで行ける「フェリー」でまた青森まで戻って来

度来て感動するということ。これからは海外からの観光客も積極的に受け入れていきたい。原口 旅館・ホテルなど、入浴施設の問題もあって、受け入れに積極的ではないところも多い。乗り越えるべき壁は多い。しかし先に行進地である飛騨高山に先んじている。今後はこういった取り組みが当たり前にある。三村 JRはJALなどと一緒に行う取り組みで、先々まで行ける「フェリー」でまた青森まで戻って来

「健康」など。三村 「身体」で健康になる。土地の物を健康にする。土地の物を健康にする。土地の物を健康にする。

原口 青森と当社がまさに「運命共同体」。10年、15年後の青森を意識しながら、青森のみならず一緒に頑張っていきたい。



3月5日に運行が始まる、新型車両「はやぶさ(E5系)」(写真はE5系量産先行車、JR東日本提供)

「健康」など。三村 「身体」で健康になる。土地の物を健康にする。土地の物を健康にする。土地の物を健康にする。